

科目名	教育の方法と技術（情報通信技術の活用含む）（幼・小・中・高）		担当教員	林 一真	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果	基礎教養 学校と社会				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、教育方法や教育の情報化に資する技能を演習形式で指導する。				
到達目標及びテーマ	本格的なAI時代、デジタル時代に突入した社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な現代的な教育の方法、技術、情報通信技術及びデジタル教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。また、児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。				
授業の概要	本講義では、まず近代からの教育方法の変遷の歴史を振り返り、さらにこれからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解し、指導案の作成や模擬授業を通して、教科等の目的に応じた授業技術を身につける。また、GIGAスクール構想にともなう授業改善、個別最適な学び、情報機器やデジタル教材の開発と活用、情報活用能力（情報機器の操作、プログラミング、情報モラル、デジタル・シティズンシップを含む）の育成における教育方法を理解する。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション：「教える教育から環境による教育」の考え方の理解－地域、家庭、場所（学校）、空間（教室）、テクノロジー、学友、カリキュラム、教師
第2回	教育方法の基礎概論（1）：幼児教育とフレーベルの恩物、遊びと学び、遊びと仕事、創造的思考力の評価
第3回	教育方法の基礎概論（2）：モンテッソーリ教育、シュタイナー教育、イエナプラン教育、レッジョ・エミリア教育、ドルトンプラン教育、フレネ教育、サドベリー教育
第4回	教育方法の基礎概論（3）：実質陶冶と形式陶冶、四段階・五段階教育法、合科学習、課題解決学習、発見学習、プログラム学習、完全習得学習、有意味受容学習、バズ学習、ジグソー学習、KJ法、MD法、反転学習
第5回	教育方法の基礎概論（4）：デュイ-キルバトリックのプロジェクト・メソッド、ピアジェ-ヴィゴツキー-ババートの構成主義・社会的構成主義と構築主義、ブルームの教育目標分類（改訂版タキノミー）と学習評価（ルーブリック等）
第6回	前半のまとめ：改訂版タキノミー、及び、学習評価、社会的構成主義の理念を反映した単元指導計画とジグソー法の学習活動展開案を作成する。
第7回	「教育の情報化」に関して、文部科学省やその他の教育機関の資料や映像からわが国の現状を調べ、「教育の情報化」にかかる政策（GIGAスクール構想、学校教育DX）について、その背景やねらいについて理解する。
第8回	ICT環境と教育方法：デジタル教科書、デジタル教材、大型表示装置、書画カメラ、情報端末（PC、タブレット等）、人工知能の効果的な活用
第9回	1人1台情報端末を活用した対面授業の方法（1）：一斉指導（授業・学習支援アプリの活用等）とグループ活動（小学校もしくは中学校の実際の授業の参観を含む）
第10回	1人1台情報端末を活用した対面授業の方法（2）：個別最適な学び（AIの活用等）
第11回	NHK for Schoolをはじめとした学校放送番組の映像から切り出した動画クリップや各種資料映像を視聴し、授業の技術（個別最適な学びと協働的な学び、主体的・対話的で深い学び、特別の支援を必要とする児童生徒に対する支援等）や授業における情報通信技術の効果的な活用について理解する。
第12回	情報活用能力について、基礎的な指導法や情報通信機器の基本的な操作（キーボード入力等を含む）を身に付けさせるため、Scratch3.0を用いたプログラミング（スプライトの動き、正多角形の描画等）を体験する。
第13回	社会的構成主義の実践：情報活用能力の育成と情報モラル、デジタル・シティズンシップ、メディア情報リテラシー
第14回	オンライン教育の方法：リアルタイム、オンデマンド、ハイブリッド、遠隔合同学習
第15回	講義内テスト：第6回前半のまとめで作成した単元指導計画や学習活動案、教材案を1人1台情報端末を活用した学びに改変し、模擬授業を行う。

事前学修	2時間	本講義では、シラバスの内容にしたがってノートにまとめたり、指導案や教材を作成したり、プログラム実習を行ったりする。事前学修として、文部科学省の学習指導要領や各種報告書などに目を通したり、プログラミングの操作方を事前に練習しておく。
事後学修	2時間	毎講義後に授業の振り返りとしてミニレポートを課す。講義で作成した指導案、教材、プログラム等の学習成果物は、回収して評価する。 自身の学びを深めるために、毎回の講義のテーマごとに、自宅でWEBや資料などを用いて自己探究できるとよい。特に、講義で得られた知見をPC上でまとめ、今後に生かせる形にしておく。
フィードバックの方法	必要に応じて、授業中に課したレポート課題等は、リフレクションを返す。	

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
レポート	70%	作成したミニレポートや教材、指導案などの教育的価値
上記以外の試験・平常点評価	30%	講義内模擬授業（テストを兼ねる）
定期試験	0%	
補足事項	・教職科目として出席を重要視するため、原則として「3回を超える無断欠席」の場合は失格となり、単位認定対象としない。なお、欠席の場合は必ずメールで事前連絡を行うこと。止むを得ず事後連絡の場合については、「授業の振り返り（ミニレポート）」の締切と同じ日時までに、メールで理由を添えて連絡をする。それに沿った連絡がない場合は無断欠席扱いとする。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料	文部科学省StDX Style 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示、内閣府） 『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示、文部科学省） 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示、文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示、文部科学省）			